

---

# 地の果て

境康隆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

地の果て

### 【コード】

N41890

### 【作者名】

境康隆

### 【あらすじ】

地の果てまで逃げた男。彼はついに捕まるが、それが理解できない

「捕まっただまるかよ！」

男はそう叫ぶや否や、窓から飛び出した。

ケチな盗みで警察に捕まった男。男は連行された警察署で、僅かな隙を見つけて逃げ出した。

警官はすぐにその異変に気がついた。待てと叫んで男の後を追う。だが男は捕縛の縄をとぎ、制止の声を振り切り逃げていく。

街に潜み、闇に隠れ、人に紛れ、男は迫る追跡の手を振り切った。男は警察の警戒線をも超え、待ち受ける警邏の目を盗んで逃亡を続ける。

ついには国境も超えた。男は幾つもの国境を抜け、何処までも逃走する。

「昔から、逃げ足だけは自慢なんでね」

男は追っ手の手を逃れる度に、誰にともなく呟く。それは男の自慢だったからだ。

男は勉強が苦手だった。だから子供の頃は、いつも授業を抜け出していた。

教師の罵声を背に、男は自慢の逃げ足で駆けていく。

「勉強なんてしなくったって、生きていけら！」

男は教師にそう言っただけでやり、実際その通りに生きてきた。

男は勉強しなくてもできる仕事の内、とても安楽な手段を選んだのだ。

こそ泥だ。

元より逃げ足には自信がある。天職とも言えた。

盗む。逃げる。

それを繰り返して、男は生きてきた。

「何処までも逃げてやる！ たとえ地の果てまでもな！」

異国での逃亡生活も苦にならない。盗みは万国共通だからだ。逃

げ足は世界一だったかもしれないからだ。

その上、新しい国に逃げ込むと、男への警戒は一からになる。

男は所詮、ケチなこそ泥。国際手配まではされていなかった。

男は一つの国で警戒されると、新しい国に入り込む。

そこでまた盗みをし、改めて手配される。そして更に逃げるのだ。この繰り返しだ。

むしろそれが都合がいいと、男は海を越え、河を渡り、山を抜け、新しい国に入り込む度に、同じことを繰り返す。

盗む。逃げる。

それをやはり繰り返し、男は逃げながら生きていく。

男は盗みと逃亡を、左右の足にでも履いたかのように世界を駆け回った。

長い逃亡生活の果て、母国語すら忘れてしまう程の時間の末、男はついに警察に捕まった。

「刑事さん。教えて下さい」

長いこう留でやっと思い出した母国語で、男は口を開く。

「俺は昔から勉強が嫌いだ。子供の頃は、教師をバカにして授業も出なかった。その時の逃げ足のお陰で、こそ泥でやってこれた。ああ、こそ泥はいけねえことだとは思いますが。ですが本題はそこじゃねえんです。俺はろくに勉強をしなかった。国語も社会も理科も算数も、何もかもだ。だから長い逃亡生活で、言葉も忘れたし、文字も読めなくなつた。そのせいで同じ国に、それも自分の母国に入り込むヘマをしちまつた。だから捕まった。それは分かるんでさ。でもどうしても分からないことがあるんでさ」

男は真剣な眼差しを、刑事と呼んだ取調官に向ける。心底分らないようだ。

「俺は真つ直ぐ逃げた。何処までも真つ直ぐ、国に背を向けて逃げたはずだ。でも、どうして俺は元の同じ国に戻ってきたんですか？これじゃまるで、ボールの上を逃げてたみたいだ。俺は地の果て

まで逃げるつもりだったのに「

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4189o/>

---

地の果て

2010年11月3日17時32分発行